

け、布教に奮起奔走しさらにこの道は飛躍的に発展していったのです。まさにあちこちで、身上や事情の人がたすかかっていくのは、全部御存命のおやさまの御働きなんだというところがわかったのです。

振り返りますと全てはおつとめからはじまりました。それまでは参拝者といえば四合のコメを持って来る人など、それほどいませんでしたが、明治3年よりお道の教えは大和の国境を越えて近隣の国々へ大きく広がり、明治11年には初めて講ができて、爆発的にこの道が広がり始めるわけですが、おやさまがおつとめをお教え下さった頃から、道が広がりはじめ、おつとめの完成に近づけば近づくほどお道の教えは、驚くほど伸び広がっていったことがおわかり頂けるのです。

さて、おつとめに関してですが、以前ご本部のある先生が、座りづとめの、第一節あしきをはらうてたすけたまえを21回勤めるにあたり、1回つとめるごとにくにとこたちのみこと様より順に十全の神名とその働きを頭の中で念じ

てつとめ、その際必ず最後に、何々の守護の理をありがとうございます。とつけ最後の21回目に南無天理王命さま十全の御守護をありがとうございませう。と念じてつとめさせて頂くとより一層つとめの理を頂けるとの話しを聞かせて頂きました。それから私もすく

に始めたのですが、口ではあしきをはらうて、頭の中では十全の守護と、最初は非常に難しかったのですが、実行していくうちに、今までのつとめ方はまるで小学生がおつとめをしているかのように、他のことばかり考えておつとめをしていくことに反省させられました。また、その先生はおさづけについてもお話し下さり、ようぼくとはおさづけを取り次ぐ資格をおやさまよりお許し頂くだけで、おさづけはあくまでもおつとめの理をとりつぐのであるから朝夕のおつとめを十全の御守護を念じて勤めることが大切で、その毎日の積み重ねが、おさづけの効能の理を頂くことになるともお話し下さいました。

現在は信仰が縦、いわいる子や孫に伝わっていかないこ

とが大きな問題になっていますが、極端なことを言えば、小学生になる前から、ただおつとめをさせるのではなく、おつとめの大切さを伝え日々朝夕のおつとめをしつかりつとめさせていけば、それだけで信仰は伝わっていくのではないのでしょうか。ですからお

やさまは、ひながたの中盤から後半にかけて、おつとめをつとめなさいと何度も何度も仕込んで下さったのではないのでしょうか。又、おやさまが教えて下さったおつとめは万能であります。例えば病気になる場合はおさづけを取り次いで頂く、災難に遭わないようにするには逸話編178にある二の切り、いわゆるおつとめ・おつなぎをすればよいのですが、災難にあわないようにするおさづけはありませんし、悩みで苦しむ方におさづけを取り次ぐことはできないのです。そう考えますとおつとめは万能であります。まだ

おさづけをほとんどの人が頂いていない、おやさまの時代にも病人が治ったり、悩み苦しむことが即座になくなったということがあるこちら

で起こっていたのです。昔の人達は何をしていたのか。おさづけを頂いてない方ばかりでしたのでおつとめをしてい

たのです。とにかくおつとめのみをしていたのです。そしておやさまはおつとめができない人には、おつとめができないものは、鳴り物の前に座り心で弾いてくれとお話し下さり、次におつとめが出来るようになってきたら、手がぐにやぐにやするの心はぐにやぐにやしているからだよと少しでもおつとめを覚えるように教えて下さり、最後にはこのつとめは命の切り替えになるから一つの間違いもな

いようにと仰られました。真剣につとめれば命の切り替えもして下さるのがおつとめです。そして現在我々は朝と晩におつとめをしております。あしきをはらうてたすけたまえの第一節で21回心のほこりを親神様に払って頂き、第二節のちよいとはなしで人間創造の元の理を頂き、第三節のたすけせきこむでかんろだいの理を頂いております。これをありがたいことに朝と晩の2回つとめさせて頂けるのです。日頃から朝と晩に真

剣におつとめをつとめてい

れば様々な御守護を頂戴し、幼い頃より子供につとめさせていけば縦に信仰がつながっていくのです。最後にありますが、いよいよ本年8月に迎える創立110周年記念祭に参拝して、先日世話人先生とのお話しの中で私自身気づかせて頂いたことがありました。それは記念祭は何の為にするのかということ。我々はいつの間に、真柱様のお入込みの件や、当日までコロナの対応をどうするか、建物のどこを直そうかとそういった相談ばかりしておりましたが、肝心かなめの記念祭はおつとめをつとめる為にするということを忘れておりました。おつとめの相談はほとんどせずに、現在までできてしまったのです。真柱様のお入込みは重要事項であります。なんとかお入込み頂きたいのですが最重要事項はやはりおつとめをつとめるということです。本年1年は大教会にとって節目の年になりますので、まずはおつとめを第一に、月次祭のおつとめはもちろんのこと、毎日つとめる朝夕のおつとめを真剣につとめさせて頂く1年とさせて

頂きたいのであります。